

## 小ソクラテス出でよ

NHK朝のドラマ「春よ、来い」のヒロイン安田成美さんの交代で作者橋田寿賀子さんが憤慨して言った。「飼い犬に手をかまれた」と。犬が飼い主をかむのはよつほどのものである。

諺ことわざについてとかく言うまい。はしなくも、ここに恩を着せている絶対者橋田と恩を裏切つたとされる安田との主従関係を、橋田さんが勝手に描いていることが問題である。おごりの構図である。

人間関係は親子の仲であっても、前提条件として各自の主体性を侵さぬものとして成り立つものである。恩を着せて主体性を奪って当然とするなら、悪徳である。人を奴隷どれいにする者はその者も同じく奴隷である（サルトル）。

やはりNHK某日夕方六時のニュース。日本人夫婦がアメリカで、乳児を車中に置いたまま買い物中を現行犯として留置場へ、とアナウンサーが言う。すぐに解説者が短評を加え、「お国柄の違いですね」と。まさに軽口。いや放言というべきだ。彼も

オピニオンリーダーだ。子をどうしようが親の勝手という日本の人権意識の低さを反省させられる好個こうこの機会ではないか。乳児にはまさに恐怖のるつぼなのだ。

以上の二例は、言葉じりをつかまえているのではない。優者の立場にある者は、大衆、我々にはややもすると人権意識抜きで君臨するように言う。そのおごりを正さねばならない。ソクラテスは物知り顔の連中すべてに質問し、その知識を吟味し、虚偽性を暴露して行つた。そこにのみ民主主義は成立するからと信じた。小ソクラテスが日本に輩出しなければならぬ。

(一九九五年三月十四日)